

フランス考古學者の事業で、最も外面的な結果については、種々の便宜が開かれた事であらうと思ふ。已に幾百に上る遊覽客に訊しても知れる所で、之等遊覽の士もやがては幾千に達するものと思へる。何は兎もあれ、アンコールへは、四季共に行き得るので、一月末から半年の間大湖 Grand Lac の減水で渡船が止む時にも、車の通る道が出来て居て陸路を取る事が出来、其處には、遊覽客を待つ頗る心地の良い小旅館があつて、假小屋様のものでなく、而して、アンコールの『考古學公園』といへる所を、ゆるくと昔の牛車の代りに自動車で廻れるのである。之等物質上の利便、之にも亦其の價值はあるが、他に澤山新しい目を惹くものがある。之は美術的性質のものである。之については、近刊の寫真帖を繙いて容易に知れる所であらう。

第一にアンコール・ヴトが出て来る。之では、宏大な牆壁の叢を取除き、壕や池を浚へ、柱廊を手入し、參道も修理されてゐる。此の兩側にある飾りの石柵も元通りになり、其の間にある側面の十二の石階の隅には、多頭を扇形